

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑭ 特許出願公開

⑯ 公開特許公報 (A)

昭55—51871

⑰ Int. Cl.³
D 06 J 1/12

識別記号

庁内整理番号
7211—4L

⑱ 公開 昭和55年(1980)4月15日

発明の数 1
審査請求 有

(全 2 頁)

① 布地の折目筋形成方法

② 特 願 昭53—121866
③ 出 願 昭53(1978)10月2日
④ 発 明 者 越崎豊宏⑤ 出 願 人 大阪市南区笠屋町37番地
越崎豊宏
⑥ 代 理 人 大阪市南区笠屋町37番地
弁理士 鎌田文二

明 細 書

1. 発明の名称

布地の折目筋形成方法

2. 特許請求の範囲

布地の裏面に於て折目を形成すべき線上に、布地の熱プレス温度で容易に軟化熔融する低融点でしかも軟化熔融状態では大なる接着力を発揮する合成繊維糸をその全長に亘り縫い込んだ後布地を裏面が内側になるように折目に沿って2つ折りし、次いで折目部を熱プレスすることを特徴とする布地の折目筋形成方法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、例えばズボンの縦折目筋、スカートや襷袢等布地の折目筋の新規な形成方法に係り、その目的とするところは折目筋が長期に亘り消失しないと共にその形成が極めて容易な方法を提供しようとするものである。

以下本発明の実施例を図面に基いて説明すれば、第1図に於て1は毛織物又は綿織物その他の布地、2はその折目を形成すべき線3上に施したミシン縫

目である。

ミシン縫目2はその上糸aを通常の綿糸や、ポリエステル繊維、ナイロン、ビニロン等の合成繊維のようにアイロン等による熱プレス温度150℃程度では熱の影響を受けない糸とし、下糸bは例えば塩化ビニルやポリエチレンのように100～150℃程度の温度で軟化熔融してしまうような低融点でしかも軟化熔融状態で大なる接着力を発揮する合成繊維糸として、下糸b即ち低融点の糸は張り具合を著しく緩め、逆に上糸aは布地に入り込まない程に緊張させた状態とする。

この状態で下糸b即ち低融点の糸を内側にして折目であるミシン縫目2部分で布地を2つ折りして折目部をアイロン等で熱プレスするのである。

然るときは下糸b即ち低融点の糸が軟化熔融して折目部の両内面同士を接合してしまい長期に亘り消失することのない突縁を折目筋4となるのである。

尚折目筋の裏側に残存せる上糸aは布地に入り込んでいないと共にこの上糸にかがっていた下糸

bは溶融してしまつて糸の形態を有しないので、
 刻ぐように引くことによって容易に除去することが
 できる。

又折目筋の内側の、低融点でしかも軟化溶融状
 態で大きな接着力を発揮する糸の縫い込みは、必
 ずしもミシン縫目とする方法のみならず刺繍或は
 手縫いにより形成することもできる。

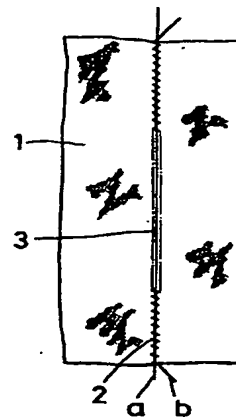
更に又布地が薄地の場合は低融点糸を両糸、布
 地が厚地の場合には太糸とする等、布地の生地質、
 風合や折目形成の目的に応じてその太さを適宜選
 択するものとする。

4 図面の簡単な説明

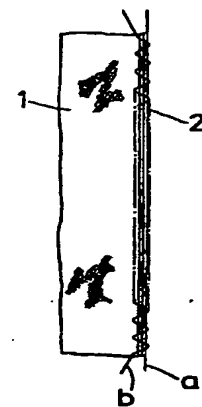
図面は本発明の実施例を示すもので、第1図は
 折目筋形成工程の布地の一部分の展開正面図、第
 2図は同上の折目部で3つ折りした状態の一部切
 欠正面図、第3図は折目筋完成布地の一部分の横
 断面図である。

1…布地、2…ミシン縫目、3…折目形成縫、
 a…普通糸よりなる上糸、b…低融点下糸、4…
 折目筋

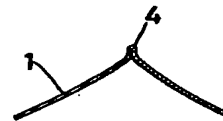
第1図



第2図



第3図



(3)